

名寄・リンゼイ姉妹都市友好委員会が「第15回

名寄・リンゼイ姉妹都市友好委員会が、第15回自治体国際交流表彰（総務大臣賞）を受賞しました。本表彰は、外国との姉妹自治体提携に基づく交流活動のうち、創意と工夫に富んだ取り組みを行っている団体に対し授与されるもので、この度の受賞は交流当初から実施している交換学生や市民訪問団の相互派遣、50周年記念事業の実施など、長きにわたる交流の積み重ねや、多様な事業の実施による市民レベルでの交流活動などが高く評価されたものです。

今回の受賞を機に、国際交流の推進に向けて、更なる活躍が期待されます。

※第15回自治体国際交流表彰（総務大臣賞）の内容は、次のコードを読みとると詳細がご覧いただけます。



姉妹都市交流の始まり

リンゼイ市（現カワサレイクス市）との交流は、名寄教会のカナダ人宣教師が姉妹都市の提携先を探していた名寄市に、妻の出身地であるリンゼイ市を紹介したことがきっかけとなり、1969年（昭和44年）8月1日に姉妹都市提携を結んだことから始まりました。

以来、主に両市の市民団体により、親善訪問や交換学生の派遣・受け入れなどの人的交流を中心に、草の根レベルでの交流が続いています。

※カナダとの姉妹都市提携では北海道で2番目、全国でも5番目という歴史を誇ります。



（写真：1969年、池田市長とエイキンズ市長の姉妹都市提携調印式）

受賞コメント

名寄・リンゼイ姉妹都市友好委員会委員長 **三瓶 孝男**（さんべい たかお）
このたび当委員会が栄えある賞をいただきました。とても名誉な事でありうれしく思うとともに、ここまで続く道筋を作っていただいた諸先輩方に心から敬意を払いたいです。我々はリンゼイとの人的交流を中心に、カナダ文化の理解や英語を身近に感じてもらうためのプログラムなどを企画し実践してきました。今回の受賞は、これらの長きにわたる交流や創意工夫による活動が認められたものだと思います。現在、コロナ禍のため、中止せざるを得ない取り組みもありますが、そのような中でもできることを模索しながら、これからも末長い交流と友情を育んでまいりたいと思います。



問い合わせ 名寄・リンゼイ姉妹都市友好委員会事務局（経済部交流推進課）
☎01655③2511（内線2361・2362）

自治体国際交流表彰（総務大臣賞）」を受賞しました

これまでの主な取り組み

○名寄・リンゼイ相互親善訪問（1970年（昭和45年）～）

姉妹都市提携後、約5年ごとに相互訪問を行っています。これまでに名寄からの派遣は計8回157人、リンゼイからの受け入れは計10回185人が訪問しています。



○交換学生派遣・受入事業（1973年（昭和48年）～）

1971年（昭和46年）7月に当時の名寄市長の池田幸太郎氏がリンゼイを訪問した際に提案し、当時では先例がなく手探りしながら会議を重ね、両市の友好委員会が中心的役割を果たし実現に至りました。これまで名寄から41人、リンゼイから44人の学生が派遣されています。



○ハロウィンパーティー（2014年（平成26年）～）

海外文化の紹介や街なかの賑わい創出などを目的に開催しています。初年度は約300人ほどの参加者でしたが、年々増加し近年は1,400人を超えるほどの大規模なイベントとなり、多くの市民が海外文化に親しむイベントとなっています。



○姉妹都市提携50周年記念事業（2019年（令和元年））

姉妹都市提携50周年を契機とし、これまで築いてきた交流の歴史を振り返るとともに、次の新たな50年に向けて、両地域の一層の交流促進と市民の国際理解の深化などを図るため、リンゼイからの訪問団の受け入れ、記念式典などの記念事業を実施しました。

<50周年記念で実施した事業>

- ①記念講演会、②記念誌発刊、③記念漫画制作、④記念碑建立、⑤なよろイングリッシュキャンプ、⑥カナダ料理教室、⑦記念式典・祝賀会



○国際親善メモリアルホール移動展（2020年（令和2年））

コロナ禍においても実施可能な事業を検討し、姉妹都市交流への理解促進や国際化に対する意識の醸成を図ることを目的に、今までの交流の経緯や、これまでの交流事業などについての紹介をするとともに、親善訪問で頂いた記念品を展示する移動展を開催しました。

